

所工鐵齋藤

アトツギ甲子園に出場

全国大会で新事業を発表

富士市吉原の製紙機械メーカー齋藤鐵工所の齋藤雄大さん（専務取締役）が2月に東京都で開かれた経済産業省中小企業庁主催の第5回アトツギ甲子園の全国大会に出場した。

1000年企業の6代目として「製紙機械メ

ンテナンス集団が日本の紙づくりの未来を守る！」と題してプレゼンテーション。地場産業の製紙業を設備面で下支える鉄工所業界



映像を示しながらプレゼンテーションの内容を説明する齋藤さん

のビジネスモデル変革を提案した。

17日には富士市役所に小長井義正市長を表敬訪問し、大会の様子やプレゼンテーションの内容などを伝えた。

アトツギ甲子園は、中小企業の後継者が既存の経営資源を生かした新規事業のアイデアを発表するイベント。齋藤さんは1都10県の関東ブロック大会で優秀賞を獲得し、市内で初めて全国大会に出場した。

ビジネスモデルは、確かな技術力があっても各社で対応力に差があり、製紙会社が安心してメンテナンスを任せられず、生産に不安を抱えているという鉄工所業界とのミス

マッチに着目した。

ミスマッチの解消に向けて、設備メンテナンスプラットフォームを立ち上げ、各社の営業機能を集約してマッチングを図り、全体として製紙会社のニーズに万全にこたえられる体制を構築する。最適な鉄工所を選び、それを組み合わせることに価値があるという。

プレゼンテーションで齋藤さんは「自社の製紙会社からの信頼と経験豊富なプロの目利き力に対応できる」と強調し「製紙会社のニーズに安定して対応し、鉄工所業界全体で成長できる。亡き父の思いをつなぎ、日本の紙づくりの未来を守り、鉄工所業界をリードする」と訴えた。

表敬訪問では「大会に向けて取り組む中で、自社の強みを再発見できた。大会では視座の高い全国各地の跡継ぎ

からも多くの刺激を受け、地場産業の製紙業に携わる者として決意を新たにしたい」と振り返った。

報告を受けた小長井市長は「富士市の製紙産業をいかに支えていくのか」という非常に

大きなテーマに向かわれている。若い人の発想力や行動力に期待したい。富士市内には中小企業がたくさんあり人材や技術が豊富。活用のヒントになると思う」と話した。